

氏 名	東 真理
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 6 1 号
学位授与年月日	平成 2 5 年 3 月 7 日
学位論文題目	実習指導者講習会を受講した看護師の自律性に関する研究

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	166	(ふりがな) 氏 名	(あずま まり) 東 真 理
修士論文題目	実習指導者講習会を受講した看護師の自律性に関する研究		
<p>【目的】 実習指導者講習会（以下講習会）を受講し、実習指導を経験した看護師の専門職の自律性がどのように変化し、どのような要因と関連するのかを明らかにすることを目的とし、以下の2点の仮説を立てた。 仮説1：講習会の効果（指導に関する知識と技術について学習）が専門職としての自律性を高める。 仮説2：講習会を受講し、現場にて実習指導を実践することにより自律性が高まる。</p> <p>【方法】 研究協力に承諾の得られた近畿地区内の看護協会にて実施された「平成23年度臨床実習指導者講習会」の受講生144名に対して、多肢選択式、無記名による自己記入式質問紙調査票（専門職の自律性尺度「小谷野開発DPBS日本語版尺度」と個人属性、実習指導者に関する内容）を用いて、講習会前後と講習後3か月の3回にわたりデータを収集した。3回の自律性の変化と、それらに關係する要因を比較検討した。</p> <p>【結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者全体の調査では、講習会の受講により自律性は有意に向上していた。しかし、受講直後と職場に復帰して3か月後との間には有意な上昇は認められなかった。 2. 受講前後の比較では、勤続年数が長いものと、看護モデルを有していないものが有意に自律性が向上していた。また受講直後から3か月の間には、書籍をよく読むものに自律性の向上がみられた。 3. 受講後3か月の間に、実習指導を実践したものは、実習指導実践の前後で自律性に差がみられなかった。一方、実践していないものは、職場に復帰した後に有意な自律性の向上が認められた。しかし、実習指導実践したものは、しないものに比べて受講前から高い自律性を認め、講習会の受講による自律性の向上も顕著であった。 4. 実習指導上の悩みについては、学生や指導要綱の理解は深まり解消されたものの、現場での調整や患者の選定など新たな悩みを持つ結果となった。 <p>【考察】 講習会により自律性の向上が認められ、仮説1については検証された。受講後、実習指導を担当したものに担当の前後で自律性の有意な向上は認められず仮説2を検証することはできなかったが、実習指導担当者はその実践を控え高い自律性を有し、講習に熱心に取り組み、受講による効果も大であった。一方担当しないものも、職場に復帰後自律性の向上を認め、講習会の受講は、勤続年数が長くロールモデルを持たないプラトー状態のものにも、モチベーションを刺激し自律性の向上につながったのではないかと考えられた。</p> <p>【総括】 講習会の受講と実習担当の効果について自律性を尺度として検証した。講習会の受講は受講者の自律性を向上させることが検証された。講習会の受講は実際に実習指導を担当しないもの、中堅看護師でプラトー状態のものにも刺激を与え、自律性の向上につながることが示唆された。また実習担当者は、受講以前から高い自律性を有し、講習会受講への意識も高くその効果が大きかったことが示された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。